
言葉の裏側

kick

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

言葉の裏側

【Nコード】

N4664B

【作者名】

kick

【あらすじ】

僕は絶対言っではいけない言葉を彼女に言ってしまった。彼女は許してくれるだろうか。

目が覚めたと同時に、僕はものすごい後悔に襲われた。
絶対に言っではいけない言葉を、僕は彼女に言ってしまった。

「耳の聞こえない僕と付き合っている事に、酔っているんじゃない？」

僕の手は雄弁に語った。

それを見た彼女の手は動かなかった。ただ悔しそうにうつむいて、黙って席を立ってしまった。

違うんだ。本当はそんな事思っただけで分かってる。

みんなに反対されても、君は僕と一緒にいてくれた。

すごい速さで手話を覚えて僕をびっくりさせた。

こそこそと僕らの噂話をする人達に向かって、笑顔で手話をする君に、僕は大笑いした。

意味も分からず作り笑いをするあいつらに、実はずいぶんな悪口を言っていたのだから。

昨日どうしてあんなことを言ってしまったんだろう。

なんで飲めないお酒なんを無理やり飲んでしまったのだろう。

何である後、彼女を追わずに一人で飲み続けてしまったのだろう。

僕は努力次第で何にでもなれると思っていた。宇宙飛行士にだって、総理大臣にだって。

ずっと強気で生きてきた。捨てるものなんて何にもないって思ってた。

でも、生まれて初めて失う事の怖さを覚え始めたんだ。彼女を失う

という怖さを。

そして昨日、僕は彼女を試したんだ。

携帯を取り出してメールを作ってみる。

「昨日はごめん。元氣？ 今何してる？」

何を書いてても何か違う気がする。あんなに強気に生きてきた僕が、今とても惨めなメールを書いてしまいそうだ。

そんなメールを読んだら、彼女はきつと僕に幻滅するだろう。

いや、もうすでに二度と会いたくないと思っっているかもしれない。

そうやって書いては消してを繰り返して、もう夜になってしまった。そして僕はメールを書いた。

「昨日は本当にごめんなさい。僕を許してくれますか？」

強気だった僕がこんなメールを書くなんて思いもよらなかつた。

でもこれが正直な気持ちだ。祈るような気持ちで送信ボタンを押した。

程なく彼女からメールが返ってきた。

僕は何度も何度も深呼吸をして、そつとメールを開いた。

「じゃあ30分以内に昨日の店に来い。」

・・・！

命令口調かよ！僕は笑った。彼女がそんなこと書くなんて初めてだ。謝ろう。会って謝ろう。素直になろう。

僕達は、今よりもっと、お互いに正直になれるかもしれない。

僕はコートとスケッチブックを抱えて家を飛び出した。

そして、タクシーを捕まえるとスケッチブックを開いて大きくこう

書いた。

「彼女が待っている恵比寿まで！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4664b/>

言葉の裏側

2010年12月24日20時23分発行